



# リューキ初タイトルは総合優勝

どこまでも高く抜けるような空、乾いた風が秋を感じさせる10月12日(日)城北中央公園で第2回25ポイントマッチを開催した。昨年の第1回はユージが優勝をさらった。リベンジにけるおとなたち、果たして雪辱はあったのだろうか。

25ポイントマッチは3人同時入力で、しかもキャプテン制がある。だから一発大逆転の可能性を常に意識しなければならない。そのキャプテン制をうまく利用したものが勝者となるからだ。予選は14組、一次予選で出遅れると取り返しつかないので、とにかくスタートダッシュをかける。二次予選を戦い満点の50点を獲得したのは、リューキ、トシ田口、ケイタ、コースケ、ヒラリン、とーさんの6人だ。中でもリューキはこの日最高得点の16点(飛ばし3点、オカマ5点、しかもキャプテン)を挙げるなど絶好調だ。このほか準々決勝に勝ち残ったのは、リョウ、コータロー、イルマ田岡、マッチ吾野、ギャオス、伊佐P、ユウ兄、ケント、ヒラリン、デビル、岩ガン、ユウダイ、ハジィの10名、決勝常連組のハルク、松ちゃん、ミスター、ミセス等はすでにいない。いかにキャプテンで高得点を挙げるかがポイントだ。

そしてこの準々決勝でさらに、リューキ・ユウ兄・デビル、トシ田口・ヒラリン・ケント、伊佐P・ハジィ・コータローの3組に絞られる。この時点でおとな4人、子ども5人だ。ところが、ここでも子どもが強い。コータローとケントが6点を連発し決勝進出を決め、残りはリューキ・ユウ兄・デビルの組が残る。ここでおとなが負ければ、決勝戦はすべて子どもになってしまう。「デビル、がんばれ！」いつもはヒール役のデビルに声援が飛ぶ奇妙さだ。あーしかし、そのデビルもリューキの前に撃沈してしまう。

こうして決勝戦はリューキ、ケント、コータローの三つ巴の戦いとなった。ケントとコータローが着々と得点を重ねていく。成増寺子屋でハルクが鍛えた腕は半端じゃない。しかし、ここでもキャプテン制をフルに生かしたリューキが飛び出してくる。キャプテンで二つ飛ばし、いきなり12点だ。さらに4点、6点と、あっという間に二人を抜き去る。ハルクの顔が苦痛に歪む、弟子はかわいいのだ。しかし、リューキはここでも落ち着いていた。残り2点をあっさり奪い、堂々の第2回25ポイントマッチチャンピオンとなる。リューキはハジィといっしょに参加するようになりはや3年、初めてのタイトルが総合優勝とは恐れ入りました。おめでとうリューキ、ルミルミも喜んでいることだろう。



リューキ おめでとう！



## 富士見台の連中が来てるぞー

ハジィ、ユウ兄、リューキ、リョウヘイといえは富士見台学童の仲間。なかなかタイトルに絡めなかったが、ペアマッチで「ハジィとユウ兄」が子ども王を取ると、今回はリューキが優勝と、一気に台頭してきた感じだ。この師匠は誰あろう伊佐Pだ。伊佐Pも無冠を返上したし、あなどると火傷するぞ。